

繪ハガキ競技會記事 (第二十九回)

秋の夜 (意匠)

小春 (技術)

一等	さが野	鈴木 錠吉	田舎の町	相田 寅彦
二等	電燈	赤城 泰舒	稻小屋	高橋 松治
三等	足柄山	若松 謙次郎	暖日	立花 甚之助
四等	想夫戀	田上 勉輔	小山	佐々木眞太郎
五等甲	砧	筒井 角太郎	郊外	赤城 泰舒
五等乙	讀書	田中 楓子	水邊	榎本 滋
六等	雁の音	佐々木眞太郎	小春日和	森 榮一
七等	故郷の便り	藤田 紫舟	野道	工藤 太郎
八等	野路の月	松浦 政次郎	小川のほとり	山田 汀生
九等	天の川	森 榮一	村はづれ	鈴木 登
十等	秋の月	相田 寅彦	麥畑	海老原 研二
十一等	田舎の月	赤壁 徳彦	菊	藤田 紫舟
十二等	獵の歸り	高橋 松治	桂川	宮澤 汀煙
十三等	龍田川	加毛 精一	渡頭	久保田 榮作
十四等	風船かつら	中尾 春雄	山里	高橋 直子
十五等	月夜の柿	池田 真人	郊外	若林 某
十六等	秋まつり	榎本 滋	山里	小林 誠之助
十七等	月に薄	吉川 晴帆	野邊	加毛 精一
十八等	月夜	大峯 寂陽	小春日	小林 克己
十九等	石山寺	宮嶋 文雄	田舎道	筒井 角太郎

十月二十八日開會四十二人百七十二枚選評の結果上記の如し

意匠の一等は設色穩やかにして、單に色のみにても秋の夜を思はしむ、二等は圖の組合せよく、三等の笙を位置に注意し。形を大にせば一層よかりしならん、四等駒の爪形昔のものならぬは惜むべし、五等描法奇抜なり、技術小春は、多くは着色寒くして暖日の感なし、一等はよく趣を得しも、忠實なる寫生にあらざ、他は取出て、言ふべきものなし。

立花、工藤、久保田の諸氏は、同一筆法にして、其色も殆ど似通へり、希くは他人の眞似を爲合ふもなく、自然に向つて忠實に其色を研究し、各自の特色を出されんとを望む。

十二月課題

意匠

歳晚

技術

枯野

十二月二十日(切全)二十三日午後二時より、日本橋區本石町十軒店三、門井學校内に開會。

但出品畫は春鳥會宛送られたし

(以下略)